

造影剤を使用する検査の説明書

ヨード系造影剤 ガドリニウム系造影剤

当院では造影剤を使った検査を受けられる方に、あらかじめ「造影剤投与に関する同意」を確認させていただいております。以下の項目をよくお読みになり、納得いただけましたら同意書にご署名をお願いいたします。

内容にご不明な点があれば担当医にお尋ねください。

造影剤とは

放射線を用いる画像診断にあたって、情報量を増やすために用いる検査用の注射薬です。造影剤を用いた検査には、心臓カテーテル検査・脳血管撮影検査・CT・MR等があります。

造影剤を使う利点

造影剤の使用によって、小さな病変や正常部位との差がほとんどない病変も明瞭に描出され、より正確な診断が可能となります。検査部位によっては、造影剤を使用しないと病変が見逃されてしまうことがあります。

造影剤で副作用が出やすい方

造影剤に改良がくわえられ副作用は減少してきましたが、危険性を完全になくすことはできていません。副作用の頻度は、軽微なもの（軽症）を含めて約3%（100人に3人程度）といわれています。以下の病気・体質の方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、また症状も強く出る可能性があり、造影検査を行わないこともあります。問診票の記入のときには特に注意をお願いいたします。

- ・今までに造影剤で副作用が出た、具合が悪くなったことがある。
- ・気管支喘息、薬物アレルギー・食物アレルギーと診断されている。
- ・腎臓の機能が低下している、あるいは腎臓病と診断されている。
- ・甲状腺機能亢進症と診断されている。

*糖尿病の飲み薬のなかには、造影剤の副作用を増やしてしまうものがあり、該当する薬は一時的に中止していただくことがあります。

副作用の種類（重症度、頻度、症状）

- ・軽症：30人に1人（3%）：吐き気、嘔吐、かゆみ、じんましん、熱感
- ・重篤：3万人に1人（0.003%）：血圧低下、呼吸困難、意識消失、心停止、腎不全など
- ・死亡：30万人に1人（0.0003%）

*遅発性副作用：造影剤使用後、数時間から10日後の間におこる副作用です。頭痛、吐き気、めまい、じんましんなどの症状をおこします。通常は治療をする必要はありませんが、症状がひどい場合には当院に連絡してください。

その他、起こりうる合併症

造影剤投与（注射）に伴い、下記のような合併症がおこる可能性があります。

- ・穿刺に伴う神経障害および動脈穿刺：針をさす静脈の近くには動脈や神経が走行していますので、針があたって傷つけてしまうことがあります。
- ・造影剤の血管外漏出（注射漏れ）：造影剤が血管外の皮下組織に漏れると腫れて痛みを生じることがあります。通常は時間がたてば自然に吸収されますが、場合によっては別に処置が必要となることもあります。また造影剤検査に使用した注射針は、30分程抜かずに経過を見ております。

上記の副作用や合併症により、検査とは別に、外来治療や入院治療が必要になることもあります。